

白山ふるさと文学賞

第十三回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生 作文の部 優秀賞

「夢に向かって」

北辰中学校三年

田原<sup>たはら</sup>

侑依<sup>ゆい</sup>

私には将来の夢がある。それは「学校の先生になる」という夢だ。学校の先生になりたいと思った理由は大きく二つある。

一つ目は私が小学校五年生、六年生のときにお世話になった先生に憧れを抱いていたからだ。私は小学校五年生までは人前で話すことやクラスの中で発表することさえ苦手でなかなか自分の意見や思い、考えを伝えることができなかった。しかし、先生が教えてくれたあの言葉で一步踏み出してみようという決心が付き、人前で堂々と話したり、クラスで発表したり、委員会の委員長になったりすることができるようになった。先生が教えてくれた言葉は、「言葉で行動で世界を変える」という言葉だ。この言葉をきいて、私が発言した言葉がもしかしたら誰かの心に響いて、ものの見方や考え方が変わるかもしれない。学びが広がるかもしれない。と思うと授業中に発表するのはいいことなんだと思えるようになった。そして、周りだけでなく自分も変えられるなと思った。委員長やクラスのリーダーにチャレンジしてみよう。一步踏み出して行動してみる。これをするにより、自分の苦手な部分が克服できるかも、変わるかもと思うとチャレンジしてみようと勇気をもつことができた。この言葉のおかげで今の私は生徒会長や部長などいろいろなことにチャレンジし、成長することができている。私もこの先生のように言葉や行動で周りの人に影響を与え、誰かの成長を後押ししてできるようになりたいと思った。

二つ目は誰かに教えることの楽しさと達成感をあげることができたからだ。中学二年生のときに友達に数学を教えてほしいと言われ、教えてあげることになった。その日は一時間三十分ほど数学を教えた。教えていると友達が「あーわかった」や「なるほどね」と納得してくれてとても教えがいがあったし、うれしかった。そして教えているうちに自分もいつも以上に深く理解することができた。ここで私は誰かに教えることの楽しさが実感できた。私は誰かに教えることが好きなんだと思った。

しかし、先生になるのはとてもむずかしいことだ。先生になるためには教員養成課程をもつ短大・大学などで学んで教員免許状を取得し、教員採用試験に合格して採用されることが必要である。まず大学に入るためには、進学率のよい高校に入ることが必要である。だから私は今、勉強を一生懸命している。勉強していてテストの点数がなかなかあがらず落ち込んだり、心が折れそうになったりする日もたくさんある。それでも「先生になる」という夢をかなえるために前を向いてがんばろうと思う。

先生といってもたくさん種類がある。例えば、幼稚園の先生、小学校の先生、中学校の先生などだ。私はその中でも小学校の先生になりたいと思っている。小学校の先生は国語や算数、社会など全教科を教えなければならぬ。それはとても大変なことだと思う。それでも私は小学校の先生になりたい。理由は小学校は満六歳から満十二歳までと年齢が低い。この年齢は人格形成の土台を養う大切な時期にあるそう。小学校のときに私を成長させてくれたあの先生のように私も子供たちに成長できるきっかけをつくってあげ、後押ししてあげたい。そう思ったからだ。

私が学校の先生という仕事をするにはまだまだ未熟な人間だと思う。でも「子供たちの成長を後押ししたい」「たくさんの人に勉強を教えたい」という気持ちは強く固く、持っていると思う。だから、それを実現するために、努力すること、それを継続することが大切だ。小学校の先生でも中学校の先生でも子供たちの成長を手助けするのに決して欠けてはいけない仕事だと思っている。そんな素晴らしい仕事について、毎日人のために尽くせる大人になれるようにがんばりたい。私はそんな人になれるよう、あきらめず一日一日成長し続けたい。